

# ハンセン病文学、もうひとつの出版史

## 一九五〇年代

- ・大江満雄編『日本ライ・ニューエイジ詩集 いのちの芽』三一書房、一九五三年
- ・島村静雨『詩集 冬の旅』橘香社、一九五五年 \*大江満雄「序」
- ・島比呂志『生きてあれば』大日本雄弁会講談社、一九五七年 \*大江満雄出版支援

## 一九六〇年代

- ・弐雄二『詩集 鬼の顔』昭森社、一九六二年 \*大江満雄出版支援
- ・神谷美恵子『生きがいについて』みず書房、一九六六年 \*『いのちの芽』から引用

- ・真壁仁編『詩の中にめざめる日本』岩波新書、一九六六年 \*『いのちの芽』の二詩人掲載
- ・C・トロチエフ『詩集 ぼくのロシア』昭森社、一九六七年 \*大江満雄「序」

## 一九七〇年代

- ・『小泉雅二詩集』現代詩工房、一九七一年 \*永瀬清子「序」
- ・藤本とし『地面の底が抜けたんです』思想の科学社、一九七四年
- ・庸沢陵『砂漠の星座』私家版、一九七四年 \*『いのちの芽』豊田志津雄名義で参加。永瀬清子「序」
- ・小林弘明『詩集 闇の中の木立』梨花書房、一九七九年 \*村松武司「跋」
- ・小村義夫『詩集 花を活ける女』長島詩話会、一九七九年 \*永瀬清子「序」と挿絵
- ・村松武司『遙かなる故郷——ライと朝鮮の文学』皓星社、一九七

九年（増補版二〇一九年）

## 一九八〇年代

- ・弐雄二（詩）・趙根在（写真）『ライは長い旅だから』皓星社、一九八一年（ブックレット、二〇〇一年）
- ・香山末子『詩集 草津アリラン』梨花書房、一九八三年 \*村松武司解説
- ・『島の四季——志樹逸馬詩集』編集工房ノア、一九八四年 \*鶴見俊輔帯文
- ・島比呂志『来者のこえ——続・ハンセン病療養所からのメッセーヂ』社会評論社、一九八八年 \*大江満雄解説
- ・立教大学史学科山田〔昭次〕ゼミナル編『生きぬいた証に——ハンセン病療養所多磨全生園朝鮮人・韓国人の記録』緑蔭書房、一九八九年 \*桂川潤参加

## 一九九〇年代

- ・木村哲也・渋谷直人・鶴見俊輔・森田進編『大江満雄集——詩と評論』思想の科学社、一九九六年
- ・木村聖哉・鶴見俊輔『「むすびの家」物語——ワークキャンプに賭けた青春群像』岩波書店、一九九七年
- ・塔和子『記憶の川で』編集工房ノア、一九九八年 \*第29回高見順賞受賞

## 二〇〇〇年代

- ・『ハンセン病文学全集』（全十巻）皓星社、二〇〇二―二〇一〇年
- ・『桜井哲夫詩集』土曜美術社出版販売、二〇〇三年 \*森田進解説
- ・森田進『詩とハンセン病』土曜美術社出版販売、二〇〇三年
- ・木村哲也編『癩者の憲章——大江満雄ハンセン病論集』大月書店、

- 二〇〇八年 \*鶴見俊輔帯文、桂川潤装幀
- ・渋谷直人『大江満雄論——転形期・思想詩人の肖像』大月書店、二〇〇八年 \*吉本隆明推薦、桂川潤装幀

## 二〇一〇年代

- ・近藤宏一『闇を光に——ハンセン病を生きて』みず書房、二〇一〇年 \*『いのちの芽』小島浩二名義で参加
- ・姜信子編『死ぬふりだけでやめとけや——弐雄二詩文集』みず書房、二〇一四年
- ・木村哲也『来者の群像——大江満雄とハンセン病療養所の詩人たち』編集室水平線、二〇一七年
- ・若松英輔編『新編・志樹逸馬詩集』亜紀書房、二〇一九年

## 二〇二〇年代

- ・石井正則『13（サーティーン）——ハンセン病療養所からの言葉』トランスビュー、二〇二〇年
- 大江満雄編『詩集 いのちの芽』国立ハンセン病資料館、二〇二三年
- ・『現代詩手帖』第六六巻第四号、思潮社、二〇二三年四月 \*特集・ハンセン病の詩
- ・『詩と思想』第四三〇巻第三号、土曜美術社出版販売、二〇二三年八月 \*特集・ハンセン病と詩文芸
- ・木村哲也編『内にある声と遠い声——鶴見俊輔ハンセン病論集』青土社、二〇二四年
- ・大江満雄編『詩集 いのちの芽』岩波文庫、二〇二四年